

子育て支援について



徳永 武次

質問 育児にかかわる個人負担の軽減や、子どもの突発的な病気でも母親が安心して働ける環境の充実が求められている。本市における病児・病後児保育の現状、前年度の利用者登録状況は。また、受入施設増の要望が多いが、今後、見直す考えがあるか。

答弁 子育て支援事業は、国・県補助、市単独事業として三十八事業を実施している。特に、すくすくベビー券支給事業、育児手当支給事業など七事業を市単独で実施しており、他市と比較しても積極的に子育て支援に取り組んでいると考える。

病児・病後児保育は市内の小児科医院一カ所で実施しており、一日当たりの定員は六名であり利用するには事前に登録する必要がある。前年度の利用登録者は百九十二名、利用実績は延べ千三百二名である。

なお、受入施設の増については、次の次世代育成支援対策地域行動計画の中で検討したい。

海洋深層水を生かした地域振興について



江口 是彦

質問 ①こしき海洋深層水の資源性やその利活用等に関する研究を産学官民が連携して進めてはどうか。②甌島に見合ったタラソ・海洋療法の検討、足湯施設や魔法の海・死海の体験施設等の検討③海洋深層水が有する数々の特性を生かし、全国各地で食品加工、農業、医療など各分野で成果が上がっているこしき海洋深層水を利活用する企業の育成支援についてどのように考えるか。

答弁 県、大学等研究機関、県海洋深層水協議会に加入している企業、市など産学官民が連携して、調査・研究に取り組むことは大変望ましく、協力したいと考える。足湯施設等は、観光客数、また、採算性もわからない現状では、多額を投じて施設をつくることは難しい。川内港からの高速船の就航など、観光につながる方法を考えていく必要がある。また、こしき海洋深層水を生かした商品開発は、鹿児島海洋深層

水協議会等と連携を取りながら、利活用を図るとともに無霜地帯である甌島の特性を生かした野菜栽培などの研究を進めたい。



こしき海洋深層水工場

少子化対策及び子育て支援策について

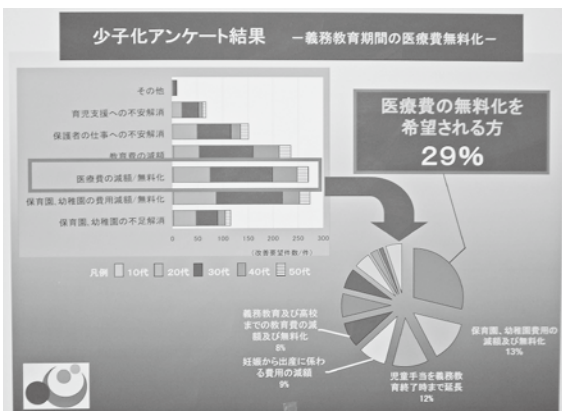


持原 秀行

質問 乳幼児医療の助成に関する条例により、子育て期にある若人人達の、乳幼児に係る医療費の負担軽減を図る目的で、昨年の四月

診療分から、医療費の無料化が就学前児童まで拡充されたが、「住みたい街・子育てしやすい街・薩摩川内」の少子化対策に貢献する施策として、義務教育終了まで拡充できないか。

答弁 限られた財政の中で、保育園の新設や父子手当で拡充など少子化対策に取り組んでいる。医療費の無料化を試算すると、現在の一億二千万円が小学校卒業までの場合で二億六千万円、中学校卒業までの場合で三億円程度となり、新たな財源が必要となる。財政的には厳しいが、子育て支援だけではなく、定住促進につながるので、本年度検討してみたい。



アンケート結果(医療費の無料化)